

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2単位)	3. 科目番号	GEBS2302 GEHL1102
2. 授業担当教員	濱野 ゆうり		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1, 日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得するために必要な知識・技術を得る。 2, コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3, 対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4, レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようにする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題1 対象者に応じたレクリエーション・ワークを展開する。グループで指導計画を立案し、実際にレクリエーションを指導する。 ・対象者の特徴に応じた具体的な目的と指導方法を考案し実践する。 ・タイムスケジュールや用具などの周辺の条件について配慮する。 ・レクリエーション支援の安全管理に配慮する。以上3点を考慮すること。 課題2 全ての実施後、グループワークを経て、まとめノートを提出する。詳細は、講義で指示する		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 適宜資料を配布する 【参考書】 楽しいをつくるーやさしいレクリエーション実践ー 日本レクリエーション協会編 みんなのレクリエーションゲーム集 日本レクリエーション協会監修 2006 高齢者のレクリエーション 三浦一朗著 ナツメ社 2013		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. レクリエーションの特質を捉えて、自己への挑戦・前向きな姿勢 (出席状況含む) を評価規準とする。 2. 実技発表への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、レクリエーションへの考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加態度 50% (出席状況や意見発表を含む) 2. 実技発表・課題レポート 40% 3. 振り返りのレポート 10% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。		
12. 受講生へのメッセージ	レクリエーションの意義や特性を把握し、アセスメントに基づいたプログラム計画を企画、運用できることをねらいとする。自らが楽しいと思えないことは、対象者を楽しませることはできない。レクリエーション・ワークを自分で楽しむことからスタートし、徐々にレクリエーション・ワークを計画し援助する立場としての視点を養ってほしい。 レクリエーション・ワークの計画には、しっかりと時間を割き、資料収集を十分に行ってください。実践準備は、授業内だけで完結することは困難です。グループでの検討や作業は授業時間外の準備を怠らないことを望んでいます。この活動は、評定の方法の「授業への積極的な参加態度」に反映します。		
13. オフィスアワー	初回の講義で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション・授業の概要と進め方 レクリエーションの基礎理論	事前学習	ノートを1冊準備し、レクリエーション・ワークとは？その概要を調べて記入しておく。今後の学習課題はすべてノートに記載すること。
		事後学習	楽しいレクリエーションにするには、何が必要かをまとめておく。
第2回	レクリエーションの役割 ー対象者ごとの目的についてー	事前学習	レクリエーションを実施する対象者には、どのようなカテゴリーがあるか調べてくる
		事後学習	対象者ごとの目的についての発表後、グループごとにその内容を考察しまとめる
第3回	グループごとによるレクリエーション・ワークのプランニング	事前学習	グループで様々な意見交換をし、より良いレクリエーション・ワークを計画できるように予習をする。
		事後学習	実施日までの役割分担を決める

第4回	集中実技①グループによるレクリエーション・ワーク 幼児を対象にしたレクリエーション・ワークの実践	事前学習	幼児を対象にする際の目的を考え、ノートに記す
		事後学習	本時に体験したレクリエーションをノートに記録する。
第5回	集中実技②グループによるレクリエーション・ワーク 児童期を対象にしたレクリエーション・ワークの実践	事前学習	児童を対象にする際の目的を考え、ノートに記す。
		事後学習	本時に体験したレクリエーションをノートに記録する。
第6回	集中実技③グループによるレクリエーション・ワーク 青年期を対象にしたレクリエーション・ワークの実践	事前学習	青年を対象にする際の目的を考え、ノートに記す。
		事後学習	本時に体験したレクリエーションをノートに記録する。
第7回	①から③の振り返りと再評価 安全面の配慮とレクリエーションによるグループづくりの効果について	事前学習	これまでのレクリエーションの安全面の配慮について、自分の考えや資料を収集しノートにまとめておく。
		事後学習	レクリエーションが学校教育現場に有効に活用できる例について考え、記しておく。
第8回	集中実技④グループによるレクリエーション・ワーク 高齢者を対象にしたレクリエーション・ワークの実践	事前学習	高齢の方のリハビリテーションの効果について、ノートにまとめておく。
		事後学習	本時に体験したレクリエーションをノートに記録する。
第9回	集中実技⑤グループによるレクリエーション・ワーク 車いすや片マヒのある方も楽しめるレクリエーション・ワークの実践	事前学習	車いすや片マヒのある方への配慮として考えられることをノートに記しておく。
		事後学習	本時に体験したレクリエーションをノートに記録する。
第10回	④と⑤の振り返りと再評価 高齢の方へのパターン別気配りの方法など	事前学習	高齢の方が、レクリエーションに参加したくない理由について考え、ノートに記載する。
		事後学習	高齢の方への気配りについてまとめて記しておく
第11回	集中実技⑥グループによるレクリエーション・ワーク 運動を通しての身体づくり・体力づくりとしてのレクリエーション・ワークの実践	事前学習	思い切り運動できるよう、自身の身体をコンディショニングしてくる。
		事後学習	本時に体験したレクリエーションをノートに記録する。
第12回	集中実技⑦グループによるレクリエーション・ワーク 室内でも楽しめる手遊びや言葉遊びのレクリエーション・ワークの実践	事前学習	子どものころに習った伝統的な遊びを思い出し、ノートに記しておく
		事後学習	本時に体験したレクリエーションをノートに記録する。
第13回	グループによるレクリエーション・ワーク 実技の反省点・改善点等のディスカッション	事前学習	これまで体験したレクリエーションについて、自分なりの振り返りをノートに記し、口頭で発表できるようにしておく。
		事後学習	本時に話し合った反省点・改善点等をまとめノートに記録する。
第14回	今日におけるレクリエーションの必要性和課題	事前学習	レクリエーションの必要性についてノートにまとめておく
		事後学習	今後の課題についてノートにまとめておく
第15回	学習のまとめ	事前学習	授業の振り返りを記載しておく。
		事後学習	15回分の内容を記したノートを提出する
15. 実務経験を有する 教員特記事項	中学校および高等学校の保健体育科「保健分野」及び「体育分野」の担当教員として、また、幼児体操教室の講師としての実務経験を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		